

令和3年度第2回中野市総合教育会議 会議録

- 1 日 時： 令和4年3月17日(木)午後2時00分から午後3時00分まで
- 2 場 所： 中野市役所 4階 会議室42. 43
- 3 出席者： 市長 湯本隆英、教育長 堀内敏明、教育長職務代理者 永江文樹、
教育委員 小野良一、相子靖子、武田美穂
副市長 竹内敏昭、総務部長 酒井 久
教育次長、学校教育課長、生涯学習課長兼図書館長、学校給食センター所長、公民館長、
博物館長、学校教育課総務係長、学校教育係長、施設係長、清野指導主事、荒井指導主事、
総務係山田副主幹
- 4 欠席者： なし
- 5 会議事項：(進行 市長)

(1) 新たな中野市教育大綱(案)について (資料により学校教育課長が説明)

市長：ただいま説明がございましたけれども、早速ですが本日お集まりの教育委員の皆様からご意見ご質問等お願いしたいと思いますのでよろしくお願いたします。相子委員、いかがでしょうか。

相子委員：前回と大きく変わった点としては、最初の5つの柱の前の前段の文章がボリュームアップしたということ。そうですね、学習指導要領が変わった点を反映させているのは、とてもいいと思います。例えばGIGAスクール構想のところなんかは、今まではなかったんだと思うんですけど、今回のコロナで、昨年、今年ですか、休校もありましたけど。この学びを止めないっていうのは、そういった休校があったところを反省して、色々出てきているところだと思うので、こういったGIGAスクール構想を進めるところなど、とても大事だと思います。

市長：はい、永江教育長職務代理者、いかがですか。

永江代理：昨日は小学校、今日は中学校の卒業式に行ってきたんですけど。子どもたち、昨日は小学校で、転退職する先生方の離任式があったんです。あるクラスの担任が、もう大分年配の先生なんです。転勤するといったら、10人以上の子、男の子女の子が泣き出すんですね。この先生はなかなか人気があるな、というふうに言ったら、校長先生が、今年になってこのクラスはガラッと変わったと。二つの小学校が一緒になって、やはり、いい点もある。もう一つは、親たちもだいぶ一生懸命、学校のためにいろいろやっている。だから、地域で学校を支えているな、という感情が動きました。それで、そういうふうに地域がなっていけばいいなと思う面。今日は中学校へ行ったんですけど、卒業生29人なんです。少ないんですけど。昨日の小学校の卒業生も29人なので、だからちょうど同じ数だけ入れ替わるかな、というふうに思っていたら、小学校の29人のうち6人が豊田中学校へ行かないんです。割合は29分の6という、かなりの数なんです。そのうち3人は長野の方の中学校へ、あと3人は親の引っ越しで、これは仕方なく行った。それであれと思ったんですけども、その親たちは何で出ていくんだろうなと。この、こういう親たちを引き留めなきゃいけないんじゃないかな、っていうふうに、昨日つくづく思いました。だから、そういうふうな、ここには載ってないんですけども、保護者、親たちがここに住ん

でよかったな、子どもたちも、ここの学校に通わせたいな、っていうふうに思うような何か。何か手だてはないのかな、というふうに、昨日、今日、本当に思いました。以上です。

市長：はい、ありがとうございます。親御さんたちがずっとそのままお子さんと住み続けたい、そういう地域づくりが必要であると。武田委員、いかがですか。

武田委員：お疲れ様です。私も昨日小学校、今日中学校と卒業式に参加させていただきまして、昨日は日野小学校の方へ参加したんですけども。卒業生が10名で、一人ひとり卒業証書を手渡された後で、壇上で中学への抱負や親への感謝などを、一人ずつ言っていて。ここで泣き出す子とかもいて、非常にアットホームな、少人数ながらアットホームな式だったな、と思いました。そこで、3ページ目、一番下にあります「中野市立小中学校長寿命化計画」ということで。今、日野小学校と延徳小学校の統合の問題もあがっていますけれども。やっぱりこの日野小学校の親御さんから見れば、やっぱり、なんだろう合併は、ちょっとしたくないっていうのが本音なのかな、っていうのも、ちょっと垣間見れたりしました。長い目で見れば、子どもが少子化になる中で、今後は、学校がいくつか合併してやってく方が大事だなと思うんですけども。そこに至るまでの過程などを考えると、ちょっとまだ難しいのかな、と試してみたりはしました。もう一つ、自分の子どもも今年中学校を卒業しまして、これでまた高校の方へ進学ということになるんですけども。この後期中野市の計画で、これが終わるのが令和7年になりますよね。そうすると子どもたち、中学校を卒業した子どもたちが、例えば進学をしたり就職をしたりということで、もしかしたら、その中野市に留まるかもしれないし、外に出ていってしまうかもしれないんですけども。1回進学して外に出た子どもたちが、中野市の方に、また戻ってきたいな、って思えるような、土台というか、この環境作りっていうのは、とても大事になるのかな、と思いました。今日、新たな教育大綱を読ませていただいて、非常に柱がしっかりしているので、これをもとに、住みやすい、より良い地域をつくれたらいいのかな、と思いました。すいません、個人的な感想で。ありがとうございます、よろしくお願ひします。

市長：はい、ありがとうございます。小野委員どうぞ。

小野委員：よろしくお願ひします。前回の（総合教育）会議では色々なことを申し上げましたけども、色々なところで反映していただいてありがとうございます。特に目指す子どもたちの姿の中に、いわゆるこれからの時代を見通した、その大事にしなきゃいけないことが、少しずつ言葉として書かれていまして、いいなというふうに思います。それで、私も一つこの中で「誰一人取り残さない社会」っていうので、SDGsのことを書いていただいてあったのですが、中野小学校の卒業式に行きました。校長先生が式辞の中で、金子みすゞさんの「大漁」という詩を紹介されて、浜では大漁で大騒ぎしているけど、海の底では弔いなんだよっていう話をされていました。それで、いつも表面的なことばかりを喜んだり悲しんだりするんじゃなくて、実は目に見えないところの、そういう様子も想像できる人になって欲しい、というようなお話をされていました。くしくも6年2組の子どもたちが、ウクライナへの寄付ということで、市長のところへ寄付金を持ってきてくださったっていう話と、非常に結びつきまして。こういう子どもを育てなきゃいけないんだっていうふうなことを改めて思いました。それから、コロナコロナで大変だった南宮中学校の卒業式にも今日行って参りました。校長先生も苦労されたし、子どもたちもさぞかしね、がっかりしていたんだろうなというふうにしていたんですけども。最後の生徒代表挨拶の中で「僕たちは今までどおりの経験はできなかったけれども、その中でも、普段当たり前でできたことが、こんなにすごいことなんだ、幸せなことなんだってことを実感できた」とい

うことで、これからの1日、1日をうんとこれから大事にしていきたいと、というような決意表明がありました。子どもたちの受けとめ、こんなふうにしてきているんだなっていうことで、非常に救われたし、嬉しく思いました。やっぱりそういった心情も、この「人権尊重都市」っていう中で、人のところを思いやったり、色々こう表面的なことばかりじゃなくて、考えられる子どもたちにしていく、っていう方向を取るといのは本当に大事ななあ、っていうふうに思います。それから、教育大綱の5つの柱が今回示されました。前回と大きく違ったなって、先ほど教育長にもお話していたのですが。社会教育・生涯教育の、一本の筋を通して、それから文化、スポーツ、いわゆる文化財の保護と活用までを通した。どちらかっていうと、生まれてから死ぬまでの、その一人の人間の成長というか、教育というか、そういったものを視野に入れた教育大綱を作りつつあるのかな、っていうことで、いい方向だなというふうに思いました。あと、これからきつとこの中に幼児教育とかね、それから青少年教育とか、そういった繋ぎの部分も入ってくれば、一生涯の学びの構想っていうかね。そんなようなものも、打ち立てられるのかな、っていうふうなことで、見させていただきました。それから、先ほど学校教育課長から説明がありましたが、今回は一つひとつ、①②③ということで、箇条書きにね、細かい施策を書かないようにした、ということで、私も読んでいて、それはいいことかなっていうふうに思います。というのは、前は①から⑨まである項目もあったんですが、やっぱり逆に具体的だけれども、かえってそれに縛られてしまう面もあるので、この大きな柱を受け止めながら、それぞれの学校で、その子どもたちや地域の実情に応じて、その力をつけるための具体的な姿、っていうか施策をね、教育計画を立てていけばいいのであって、あまり細かいことまで、あれもこれも、っていうふうには、書かない方が今回は良かったな、っていう感じを持ちました。以上です。

市長：はい。ありがとうございます。小野教育委員のおっしゃられた、中野小学校のお子さん方もそうですけど、社会の現実を見ながら、やはりその気付くっていうことをですね、また行動に表せて、そして寄付行為をされるという、非常に素晴らしいお子さんたちが、やっぱりこの地域にいらっしゃる。また、それを育てていらっしゃる先生方もご立派でいらっしゃる、というふうに思います。あと、小野委員がおっしゃった、吉川英治さんでしたか、山岡荘八さんですか、ちょっと忘れちゃったんですけども、川の流れがあって、川の表面では、魚たちが飛んだり跳ねたり騒ぐと、ただその奥の深い百尺下の水の深層の中には、また違った流れがあって、その表面とその奥深く流れるものの違いっていうのは、世の中にはあるものだよ、というようなワンセンテンス、ちょっと思い出しまして、非常に感動いたしました。よろしくお願ひします。堀内教育長どうぞ。

堀内教育長：はい、お願ひします。教育には、日本のどこにいても、同じような教育レベルって言うていいんでしょうかね、そういうものは保障される、というその中で、それぞれの、都道府県も含めてですけれども、地域の学校という言葉があるんですが、それぞれの地域にある学校の独自性、こういうようなものも含めて、一つひとつの学校の教育が成り立っている、というふうに考えた時に、昨日と今日、卒業式、私も小学校、中学校、行ってきましたけれども、そういう中で6年間で学んだ思い出、というか、ダイジェスト的に、そういうような話が、校長の式辞、或いは子どもたちの呼びかけ等に入ってくるんですけども。この学校ならではの学習、学びをしてきたんだな、っていうものが、やっぱりいろいろこう出てくる。そこに「ふるさと学習」という言葉で、こういうところに出てくるんですけども。中野市ならではの、あるいはその学校の置かれている地域ならではの教育

が、やっぱり息づいているんだな、っていうことを思います。そうしたときに、やっぱり中野市として、今、この新たな令和の時代、中央教育審議会の方では「令和の日本型学校教育」ってことで打ち出していますけれども、もうものすごい学校教育も変わってきているんですけども。そういうことに対応しながらも、地域で根づいている教育を、うまく融合しながら進めていく、こういうことが大事なんだろうな、っていうことを思います。それで、それぞれの学校が作っている教育計画というのが、大体4月1日出発の職員会議で扱われるんですが、そこの最初のところに、この中野市で目指す教育っていうようなところで、この教育大綱が載ってきます。それを受けて、この学校はこういうような教育を本年度願ってくんだと、いうことで、中野市のこの教育大綱の果たす役割っていうものは非常に大きいです。そういうところでいきますと、やっぱりこの5つの柱ですけども、前回から比べて非常に短い言葉でぼんぼんぼんこう置かれている。そういうところって大事なんだろうなっていう、何回も説明を受けている、あるいはわかっている人は理解できるけれども、多くの人たちに、あるいは先生方に理解してもらうには、できるだけわかりやすい言葉で短い言葉がいいかなあ、というふうに思いますので。そう考えると、前回のところから比べると非常に端的に言い表されていていいなあ、ということになります。この自分たちが育っているこの中野市が、どういうところであるか、っていうのを、中に居ただけではわからないので。我々大人になると、外のことがわかって比較ができるんですが、やっぱり中に居る子どもたちが、自分たちの住んでいる中野市、あるいは、この学校が置かれているこの地域には、こんないいところがあるんだな、っていう学習は、外との比較等によって、わかってくるので。これは学校現場で、指導、工夫するところなんですけれども。最終的には、自分が育ったふるさと中野市は、とっていいところだなあ、と思えるような子どもたちが育っていくことを願っている。その一番の根幹に当たる教育大綱ですので、今度、新年度、新たにこの4年間でありますけれども、それぞれの学校で取り組んでいけるものにしたいなあということを思っております。以上です。

市長：はい。ありがとうございます。今、一通り皆さんからご意見お伺いいたしました。まだ言い忘れた、もうちょっとこういうことを言いたいっていう方。もし、いらっしゃいましたら、どうぞ、ご遠慮なく発言していただければ、というふうに思いますが。よろしいでしょうか。堀内教育長、どうぞ。

堀内教育長：すみません、一つだけお願いします。私も狭い視野で見ていたんだなっていうふうに思うんですが、この教育大綱って、教育委員会が主で作るんだなあ、なんていうふうに、認識の捉えが間違っていたところがあって。これ、湯本市長の策定、ということは、文字通りそういうことはわかっていたのですけれども。こういう中身を見ていた時に、必ずしも教育委員会の管轄でないところも、中野市の子どもたち、あるいは中野市の大人を含めた、住んでいる人たちの生涯にわたっての教育っていう、広いところで捉えていかなくちゃいけないのかな、ってことを新たに認識したんですが。それは具体的にはどこか、っていうと、7ページのところの、柱4の社会教育・生涯学習の充実の最後のところですね。また書きのスポーツ教室スポーツ体験云々の、ここのところなんですけれども、狭い意味でいくと教育委員会の事務局が担当しているところは、これ庁内の編成の違いであって、ここのところは、直接スポーツ大会等を企画していないんですけれども。でも、庁内の中野市の施策とすると、きちんと、それぞれ任務がある所があるっていうことで、狭い捉え方してちゃいけないんだなと。いわゆる教育だから教育委員会っていうイコールじゃなくて、そういうようなところを先導はしていくんですけれども、すべて教育委員会でやる

なんていう、そういう狭い考えではいけないんだなんて思いながら、いたんですけれども。ですので教育委員会っていうか、事務局担当のことばかりではなくて、広く中野市の目指す教育、っていう大きなところで、それをどこでやるかっていう、そこのところが、市全体での割り振り、っていいですか、担当が変わってくっていうか、違っていくんだなあ、なんてことで、改めてそういうところ認識したんですけれども。以上です。

市長：ありがとうございます。永江職務代理人、いかがですか。

永江代理：はい、一つだけ。これ大分厚いですよね。この内容を市民にどうやって、大ざっぱでもいいんだけど知らせるかっていう、それはどういうふうにお考えでしょうか。

市長：事務局。

学校教育課長：はい。こちらにつきましては、内容が決まりましたら、市のホームページに載せて参ります。それから4月号の市の広報に記事として載せる予定にしております。それ以外には、当然学校の方にはこれは、お知らせはしていきますし、PRという面で行きますと今申し上げた2点なんですけれども、いろんな機会をとらえて、出せる時にはPRをしていきたいと考えております。

市長：今の永江職務代理人からの質問の、これ「広報なかの」に全文を載せるの、それともダイジェスト的なものだけを載せるのか、っていうのも。ちょっとそれについても、答えて下さい。

学校教育課長：はい。ページ数の制限がございまして、全文をそのまま載せることは、ちょっと難しいので、記事は要約をしたものが載ります。内容を詳細に確認していただきたいという場合は、ホームページの方に誘導するような形になるかと思っております。

市長：よろしいですか。はい、どうぞ、小野教育委員。

小野委員：はい。今のことに関連して、細かなことだから言わないようにしようかなと思っていたんですが、関連がありますので。例えば5ページをご覧ください。非常にボリュームアップして書いていただいた1行目のところに「今後は、多様性と包摂の視点のもと、SDGs」っていうふうな、記述があるんですが、この「包摂」っていう言葉は、私、辞書でも引いたんですけれども。ある概念を、より一般的な概念の中に取り入れること、って書いてあるんですけど。余計わかんなくなっちゃって。あんまり日常的に使わないですよね、この言葉。もし市民にね、広報や、あるいは文面で知らせる時には、こういうあんまり見たことがない、辞書を引かないとわからないような言葉は入れない方が私はいいと思うんですよ。エビデンスだとか、今、なんか訳のわからない言葉がいっぱい出てきますよね。あれね、よけい市民には読みづらいし、嫌がられちゃうっていうか。そんな形なので、検討していただければなあ、ということと、もう1点。よくこういう計画は1枚のグランドデザインの、この1枚のまとめた形の表みたいなものを作りますよね。例えば、これが一つの形の例なんですけれども、こんなような形で、柱は5つとか、そこへ矢印が来て、こうするみたいなね。もし、今後の検討課題ということで、そんなすっきりした形のものが、1枚で作れるようでしたら、私、自分では作らないで卑怯なのですが、作られるようでしたら検討をしていただければありがたいなあ、と思います。以上です。

市長：はい、事務局。

学校教育課長：まず1点目、「包摂」という用語ですけれども、こちら確かに一般的にはあまりなじみのない言葉ですが、このSDGsの説明のところには、くっついてくる用語でありまして、英語からきています。「インクルーシブ」という英語からきているので、ちょっとわかりにくい、ってことなんですけど、「インクルーシブ」というのは、本当にあらゆる

ものを包み込むような概念、っていうことで福祉の業界とかでも、その包み込むということと、特に学校関係でいえば、特別支援のところもインクルーシブな教育っていうような形で使われるようになっていきます。ですが、おっしゃる通り、ちょっとまだ馴染みがないので、7ページ目に「リカレント教育」の用語の説明が入っていますので、こんなような形で入れられないか、ちょっと考えてみます。それから2点目の図示をしたらどうか、ということなのですが、先ほどの広報に載る記事も、半分ぐらいしかページがないものですから、そこには載せられないのですが、市のホームページに上げる場合には、容量の制限ありませんので、そこに何かできないか考えてみたいと思います。

市長：あれ、今の「包摂」を「包み込む」っていうふうに変えちゃいけないの。その方がわかりやすいんじゃないのかな。多様性と包み込む視点のもととか、そういうのでいいんじゃないかな。

学校教育課長：その辺も含めて考えさせていただきます。

市長：他にございますか。はい。相子委員。

相子委員：今、永江職務代理と小野委員のお話を伺って一つ思ったのですが、市民にどう伝えていくか、という点で。そうですね、さらっとこう、5つの柱を見ていった時に、すぐには意味をちょっと概要を私も掴み取れなくて。補助的に、例えばイラストをつけて、一つひとつの項目をイメージする助けにする、っていう手は一つなのかなというふうに思いました。例えば一つ目の、ふるさと学習の推進だったら、高社山の絵を描くとか。ちょっと気になったのは、一つ目と二つ目の両方とも、ふるさと、ふるさと、って入っているので、何かこう、ちょっとそれがまた意味がぱっととりづらい要因になっているような気がするんですが。この2点目だったら「豊かな心・健やかな体」っていうあたりが、伝えていく大事な要点になるのかなと思うので。そういった体や心を想起させるようなイラストをつけるとか。そういった、一つひとつの柱を象徴する、何かこうアイコンみたいなのがあると、より意味が取り易いかなあと思いました。以上です。

市長：はい、事務局。

学校教育課長：おっしゃるとおりかと思います。この5つの柱については、先ほど小野委員がちょっとおっしゃったんですけど、人間の成長に合わせて、っていうようなイメージでございまして。1番目は全体の中野市の、ってことなんですけれど。2番目がどっちかという幼児保育。それから3番目が学校教育。4番目が、もうちょっと上に上がって社会教育で大人。5番目がそこから更に歴史的な、っていうような。イメージとしては、そんな流れをしていましたので、今、相子委員がおっしゃったような、イメージ化するとわかりやすいのかもしれませんが。ちょっとその説明は特に入れてないので、単にこの柱のつくりは、そんなことをイメージしてなっている、っていうことだけなので。ちょっと今、この大綱自体を、おっしゃるように図示をするとか、イラスト化するっていうのは、ちょっと時間がないので、すぐにはできませんが、PRをしていく過程では必要なことかと思っておりますので、参考にさせていただきたいと思っております。

市長：それでは他にありませんか。他にありませんければ、新たな中野市教育大綱であります、第2次中野市教育大綱（案）については、以上といたします。本日お聞きしましたご意見を参考にさせていただきます。修正が必要な部分があれば修正のうえ、今月の末までに第2次中野市教育大綱を策定させていただいて、その後、第2次中野市教育総合計画・後期基本計画と合わせ、引き続き、教育委員会と連携しながら事業を推進して参りますのでよろしく願いいたします。

(2) その他

市長：それでは会議事項の（２）その他について、事務局から何かありますか。

学校教育課長：はい。今、ご意見の中で出たとおりなのですが、４月号の広報に掲載をすることで、現在、準備を進めております。今、いただいた内容も踏まえまして、また考えてみたいと思います。以上でございます。

市長：それでは、他に何かないようでしたら、本日予定しました会議事項はすべて終了となります。それでは事務局にお返しします。

教育次長：はい、ありがとうございました。本日の会議録につきましては、後日、議事録としてホームページに、公開して参りますのでよろしくお願いいたします。それでは以上をもちまして第２回中野市総合教育会議を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。お疲れ様でした。